内田造船解雇職工 却々容易に納らず

重役と職工委員が一悶着なる 最近勞働爭議の珍現象

内田氏の内幕を聞いて吃驚の 鈴木友愛會長が再交渉

横濱 元内田造船所職工の解雇手當問題に關し職工側の代表が出神し本社に内田信也を訪ひ膝詰談判に及ぶ筈だつたのを一時見合せの通知があつたので内田氏も『ホッ／＼手當を受取りに來たものもあるし、什うにか納りさうです』と大納まりだつた事は昨報の如くであるが

右の 手當を受取つたのは全職工の一部で尚ほ六百餘名の者は頗る強硬に構え、鈴木友愛會長に縋り交渉方を依賴したので鈴木氏は廿一日夜横濱山下町の造船所に坂本重役を訪問し二時間に亘り交渉を遂げ一方某大銀行家に就き内田氏の信用狀態を調査する所があり廿二日午後又改めて交渉を行つた、

斯く 同夜只管其成行きを案じてゐる職工側へ、鈴木氏から交渉顛末に關し『自分が坂本重役から聽取し且つ調査したる所に依れば内田氏の關係事業は全部何れも行詰まり狀態であるから此際諸君の希望を其儘貫徹する事は至難であるが幾分

色は 附き得ると思ふ併し自分は事情を存せぬから諸君の代表者と共に更に充分の交渉を遂げ最善の努力を盡したいと思ふ、結束は固くせねばならぬが示威運動の必要は無い』と報告し且種々協議の末、結局大張り内田氏へ膝詰談判に及ぶ事となり職工長木村良治外四名を代表に選出したが

一方 重役及び社員も近く職員側と同一運命に陷る事とて愛に重役社員側も職工側と一團になり内田社長へ肉薄すると云ふ我國勞働爭議始まつて以來の珍現象を呈する事となり阪本重役が重役を代表し武田造船部長が社員を代表し前記代表職工と共に二十三日夜發、廿四日着神の筈である。

右に 就き某職工長は『今日迄出來得る限り我慢をして來たが今日となつてはもう堪忍袋の緒が切れた餘り行り方が酷い併し我々は飽くまでも強硬な態度を執つて附和雷同する樣なことは斷じてしない職工連の中には

關西 の者が多く云ひ出したら却々後へ引かぬ手合が揃つて居るから右に噛り付いても退ぬ考えです』と意ひ込んでゐる、尚ほ万一の場合に事故が起れば直後決死隊を送る手順を整へて居り附近の淺野造船横濱船渠の職工からも盛んに應援を申込んでゐると（横濱）

納まり返つた 内田の本店

當市の内田總本店では、出神見合せの市報を信用せるもの、如く『新聞には代表者が來るやうな事が書いてあるさうだが、當方へはまだ何等の通知もありません』と語り至つて平靜を裝つて居る

職工側代表 内田氏と會見

數時間に亘つて陳情 更に本日再會の筈

内田造船所職工解雇慰勞問題に就て社長内田信也氏と協議する爲廿四日來神した職工代表者今村丹次郎外五名は同日午後一時から内田汽船會社會議室で内田社長始め

▽重役列席 の上種々陳情し廿五日午前九時半から再び協議を遂ぐる事にして六時半に引揚げた右に就き内田氏は語る『一同の申分は聽いたが職工の多數は九州から來た者で受取つた慰勞金では家族と共に歸國する旅費に困るから更に今一度考へ直し呉れといふのである』さて

▽具體的の 談話を避けたが職工側は『解雇手當は日給十四日分と勤續月數一ヶ月に付一日の割で支給されたが一同之を受取らず更に六ヶ月分を支給された所仲裁者があつて二ヶ月分に減額したのである今日は決定を見ず一同陳述したゞけで別れた』と（廿四日神戸發）

社員代表も神戸に着く 何れ社長と會見の筈

又社員代表湯本二郎外五名は職工側と一時間遅れて神戸著直ちに驛前後藤旅館に陣取つたが一行來神の目的は解雇慰勞金等には關係がないと聲明して居るが何れ職工達の片付いた後社長と面會する筈である（廿四日、神戸發）

内田汽船の旅費問題は解決したと 内田氏語る

内田造船所解雇職工慰勞金增額請求の爲め來神した職工代表者六名は二十五日午後二時半から内田汽船會社會議室に會合し擬議する所があつた、午後十時社長内田信也氏は語る

内田造船所職工代表者と經營者との協議は目下所々に流行して居る勞働爭議ではなく遠方から來た職工が歸國旅費に困るから同情を以て之を出してくれといふので双方熟議の結果歸國旅費として三萬七千圓社長のポケットから支出することにした云々 尚阪本重役は二十五日午後十時十七分三宮發で歸濱し又武田重役は職工一同と共に二十六日歸濱した

神戸行の代表連 滿足して歸る

双方から讓歩して結局内田氏が三万七千圓を吐き出す 内田造船の爭議解決

内田造船所の爭議に關する社員職工兩代表委員は坂本武田兩重役附添ひの下に神戸に至り社長内田信也氏と會見を終り坂本重役は廿六日正午社員代表は午後一時職工側代表先發の日坂、宮地兩名は同七時四十五分夫々横濱に歸着した、社員側二百餘名が連署せる

◇解雇手當 增額の要求に對し内田社長は『社員の進退に就ては十分考慮し其の半數は内田造船所を引繼ぐべき横濱鐵工所で使用し他は自分が相當の場所に推薦する考へであるから職工側問題が解決するまで神妙にして待つが得策で知識階級者でありながら職工同樣騷ぐのは面白くない』と說得され社長の眞意を諒として要求書を撤回し穩かに引下つた、

◇職工側は 會見三回に亘つた結果要求せる日給二ヶ月分内田側の原案なる日給十四日分に對しては互に歩み寄り一ヶ月分（此總額三万七千圓）とし之を内田氏が職工に對する歸鄕旅費として提供することに圓滿解決した

横濱鐵工所の專務決定 重役乘込みは今明日中

膝詰談判効を奏し 内田社長俠氣を出す

職工側の要求の半額を支出 代表が社長の誠意を認めた

昨紙報じた如く内田社長と職工代表との第一回會見は二十五日午前十時半から前日同樣本社會議室で行はれた、對談約一時間で職工代表は一旦旅館に引揚げ午後三時から更に會見したが、晝食後職工代表は語る『朝、本社へ出際に警察から調べに見えたので

約束の 時間が一時間近くも遲れました、午前中は別に何等取纏まつた話はありませんでした、社長さんの方でも同情はして呉れて居ますが、竟り金の出端がないのですな、七万圓餘の金を何處からか産み出さうといふので先方でもオイそれとは話が決りませんよ、下さる

金は尠 くなつても先方に誠意さへあれば滿足して引揚げるかも知れませんが、誠意がないと認めたら一歩も讓らぬ決心です、若し不調に終つたら友愛會から智惠位は借りるかも知れません』と云つて居たが午後三時、引續き會見が行はれ午前中社長から『何とか諸君の顏を立てやう』との

詞が出 て午後に『これでは何うか』と社長側の成案が出たので、職工側は鳩首會議の上『責めてはこれだけ』といふ希望が出たので、それを更に社長側で重役會議にかけ、午後九時五十分に至つて漸く手打が濟んだ

要求の半額で解決 社長のポケットから三万七千圓出す 分配は職工代表に一任

其結果を内田社長は記者團に發表して曰く『今までの會見は總て内輪同士の懇談で、云はゞ親子の相談であつたのだ、私の方でも職工側の立場に同情して能ふ限りの範圍で色を附けやうと思ふものだから懇談が遲々として進まなかつた譯で、

勞働爭 議でも何でもないのだから其邊を誤解しないやうに、けれども一旦定めた社規によると金額を今更變更するといふことは斷じて出來ないので、職工の歸鄕旅費を私のポケットから支給することにした、金額は三万七千圓、分配法は職工代表に一任することにした』云々、それで

代表側 は何れも謝意を表しながら『三万七千の慰金額は吾々の要求した日給の二ヶ月分、約七万二千圓の半分ですが社長の厚意から出た事でもあるので吾々には感謝の意を表して引き揚げる考えです』と語り重役阪本駿一氏は同夜十時四十分の列車で

六名の 職工代表は今曉九時過ぎの列車で何れも歸途に就いた、以上で兎も角一段落の附いた譯である

社員側代表者引揚ぐ

四ヶ條は要求で無い希望條件だ 内田氏の諒解を得れば夫で好い 別に言質を得る必要は無いと

一方 相生町加藤旅館に投宿の社員側代表者は二十四日夜内田信也氏を訪ひ社員側の意志と既報四ヶ條の希望條件を述べて引取り二十五日は各自友人を訪れるなどして自由行動を取り同午後六時二十分神戸驛發の列車で横濱に歸つたが

代表 者側の一人は『職工に相次いで我々が來神した事に就て何か我々が職工を背景にして騷ぐかのやうに誤解されるのは無理もない事ですが我々は職工側と何等關係は無いのです、

私等 は只誤解を解く爲に別れ際を綺麗にし度い爲に來神したのに過ぎません、私等の提出した四ヶ條は要求條件では無く單に希望を述べた丈であつて夫に對し内田社長の回答を求めたのではありません、去二月、會社が若干の社員を

馘首 した時此の四ヶ條を適用したのですから今回は少くとも此前例以上の待遇はして貰へるものと考へてゐたのです、處が重役手當が無いと云ふ話ですからアノ四ヶ條を提出した迄です、其際内田社長は『ウンさうか』と云はれた丈けですと私等も夫以上何も

言質 を得る必要はありません、諒解を得れば夫で好いのですから——』と語つてゐた

職工側の要求した半額を投出して

内田造船所のゴタ／＼無事解決を告ぐ

【東京發電】内田造船所職工代表者の解雇手當増加に關する内田所長との交渉は廿五日三度び内田汽船樓上の會議室で開かれた先づ内田氏から職工側の陳情に對する回答案を提出し職工側は是れに就き鳩首協議する事七時間形勢混沌を極め九時過ぎ漸く交渉に妥協點を發見した、即ち内田氏は造船造機部職工の爲め此際旅費として三萬七千圓職工側の要求した七萬二千圓の半額を提出し無事解決を見るに至り又當面の責任者として交渉した造船所常務阪本駿一氏は同夜十時廿分三の宮發横濱に向ひ職工側も横濱の同氏に[illegible]を打電した

職工心理の研究を發表するベ夫人

明日衞生會館で講演 工藝に著いた研究 機械で實驗公開

實驗心理學の研究者であるベルリーナ夫人（東京帝大經濟學部教師ベル氏夫人）は今度後藤東京市長の依囑を受けて廿七日午後三時から大手町私立衞生會で工業勞働者の實驗心理に關する講話を行ひ

▲同時に夫人 が在米中に於ける研究材料を用ひて心理的技術の實驗を試みる筈であるが共に用ひらるゝ機械は同夫人の友人で心理學者として知らるゝミューレル博士の發明に係り最近三菱本社がベルリンから購入した

▲最新のもの である因に此際通譯は後藤市長秘書森氏が通譯の勞をとることで夫人は北海道生れでライプチヒ大學を卒へた若い美しい人である職工の疲勞の心理に就いての權威ある研究者として知られてゐる